

凛々しく ~附属小温故創新~ 2017/4/17 No. 4

春の部内授業スタート

22日(土)には多くの保護者の皆様をお迎えしてPTA総会、いずみ後援会総会が開催されました。来年度の事業計画や予算も承認され、いよいよ本格的に平成29年度の活動がスタートします。附属小の教育活動が改めて西井会長はじめPTAの皆様や白根会長はじめ後援会の皆様のご理解とご支援で運営されていることを強く感じた1日でした。その後の授業参観ではどの教室も保護者の方々と一杯でした。先生方にとっては公開研究会に向けた準備で忙しい中での準備であったかと思いますが本当にご苦労様でした。

さて、18日の孝徳先生の道徳から大地先生の家庭科、佐竹先生の体育と部内授業が始まりました。部内授業で大切なのは部内授業がどうであったかしっかり検討(振り返り)することです。もう検討は終わっていることと思いますが、私なりに振り返ってみたいと思います。

座席表を活用する

一人一人の考えを机間巡視で把握する上でも有効でした。

学習課題をきちんと提示する

学習課題は授業の根幹です。板書し、全員で斉読し全員で確認しましょう。

ノートを使う

基本はノートです。道徳や家庭科でもきちんとノートを活用していたのでさすがだと感心しました。学習の積み上げは=ノートの積み上げ、子どもがノートの前のページをめくって既習内容を見つけようとすれば本物です。

子どもを褒める

できたとき、発表できたとき、しっかり聞いていたとき、子どもを褒める場面はたくさんあります。褒め上手は授業上手です。

デジタル黒板を効果的に活用する

各教室に設置されているあれだけの機器です。他の学校では使いたくても使えないので積極的に活用しましょう。

教えたいことを明確にする

3人の授業では、「いのちの大切さ」「時間の使い方」「台上前転」が授業の題材でした。ここから何を「教えたいのか」を明確にすることが授業で、それを考え抜くことが教材研究であり、その上で子どもの前に提示できたとき「教材」に変わります。子どもが教材と向き合ったときは「おや」「え!」「今までと違う」「なぜだろう」といった反応や沈黙がでてくるわけで、ここを大切にしたいと思っています。

今週も部内が続きます。お互いがよい学びができるように取り組んでいきましょう。

(文責: 副校長 手代木)